

# U.S. Indicators

## 米国 勢いがやや鈍化(16年8月小売売上高)

発表日：2016年9月15日(木)

～7-9月期の実質個人消費は前期比年率+3%程度の伸びを維持する見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

### 小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
16/01	▲0.5	(+2.8)	▲0.4	▲0.8	▲1.1	▲0.5	+0.5	▲0.3	▲0.0	▲3.1
16/02	+0.3	(+3.6)	+0.2	+0.6	+0.7	+0.4	▲0.1	▲0.2	+0.6	▲5.2
16/03	▲0.3	(+1.7)	+0.4	▲2.2	▲3.1	▲0.1	+0.4	+0.7	▲1.0	+3.7
16/04	+1.2	(+3.0)	+0.9	+1.4	+2.6	+0.5	+0.1	+1.3	+0.2	+2.7
16/05	+0.2	(+2.2)	+0.3	▲0.7	▲0.3	+0.8	+0.2	+0.5	+0.4	+1.7
16/06	+0.7	(+2.8)	+0.8	+1.1	+0.5	+1.1	▲0.4	+0.6	+0.2	+2.2
16/07	+0.1	(+2.4)	▲0.4	+0.9	+1.7	▲1.1	▲0.1	▲0.4	▲0.6	▲2.6
16/08	▲0.3	(+1.9)	▲0.1	▲0.9	▲0.9	▲0.7	+0.1	▲0.2	+0.7	▲0.8

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比(未季調)。

\*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

\*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

### 8月の小売・飲食サービス売上高は、前月比▲0.3%と失速

16年8月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比▲0.3%(前月同+0.1%)と失速し、市場予想中央値の同▲0.1%を下回った(6、7月合計で0.2%下方修正)。内訳をみると、家電、食品・飲料、衣料品、飲食店が増加に転じたほか、百貨店など一般小売が7月の減少から横ばいとなった。また、家具、ガソリンスタンド、スポーツ用品・本・趣味用品は減少幅を縮小した。一方で、自動車・同部品、薬局、その他小売、通信販売が減少に転じたうえ、建設資材が減少幅を拡大した。

8月の小売売上は、雇用情勢の改善によるマインドの安定が続いたものの、例年よりも悪天候だったことや、自動車・同部品が7月に高い伸びだった反動で減少したことで失速した。高い伸びを続けていた通信販売が減少に転じたが、大手小売りがネットでの販売を強化するなかで価格競争が激化した影響のほか、9月のスマートフォンの新製品発売を前に買い控えが起きた可能性があり、再び拡大に転じよう。

### 8月の小売・飲食サービス売上高では自動車・同部品が最大の押し下げ

8月小売売上高の前月比(▲0.29%)の寄与度をみると、プラス寄与の業態では、飲食店が+0.10%と最大の押し上げ寄与となった。他では寄与度の大きい順に、食品・飲料が+0.04%、衣料品が+0.03%と続いた。一方で、マイナス寄与の業態では、自動車・同部品が▲0.19%、建設資材が▲0.09%、ガソリンスタンドが▲0.06%、その他小売りが▲0.05%、通信販売が▲0.04%、スポーツ用品・本・趣味用品が▲0.02%、家具が▲0.01%、薬局が▲0.01%にとどまった。なお、家電、百貨店を含む一般小売は0.00%。

### 8月のコア小売売上高は同▲0.1%に失速

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比▲0.1%(前月同▲0.4%)と市場予想の同+0.2%に反して失速した(6、7月合計で0.1%下方改定)。薬局、その他小売、通信販売が減少に転じたうえ、建設資材が減少幅を拡大した。

一方、小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高(自動車・ガソリ

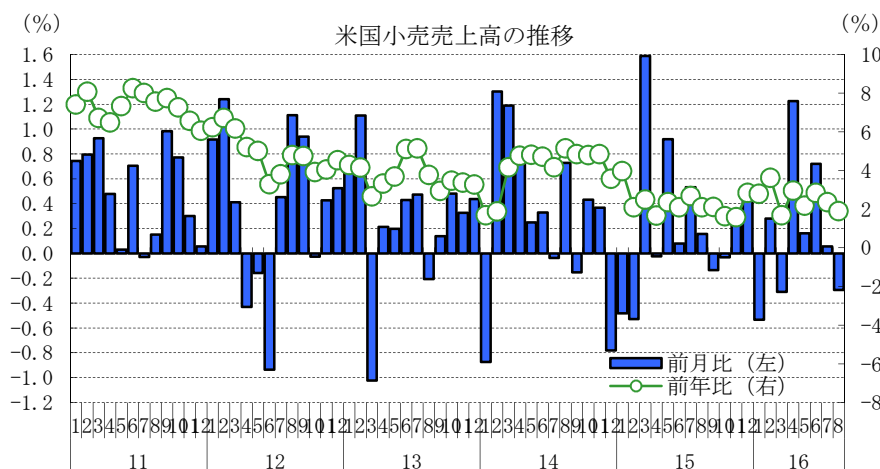
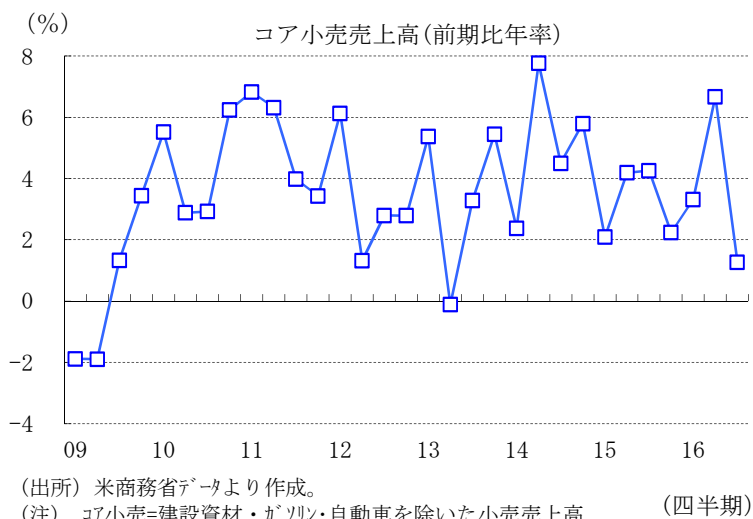
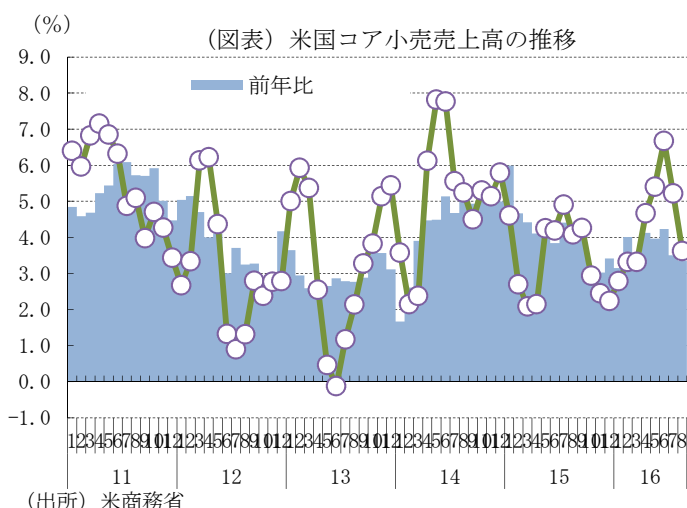
ン・建材を除く小売・飲食サービス売上高)は、前月比0.0% (前月同▲0.1%)と横ばいになった。家電、食品・飲料、衣料品、飲食店が増加に転じたほか、百貨店など一般小売が前月の減少から横ばいとなった。また、家具、スポーツ用品・本・趣味用品は減少幅を縮小した。

**コア小売売上高は、3  
ヵ月移動平均・3ヵ月  
前対比年率+3.6%と  
高い伸びを維持**

小売売上高のモメンタム(3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率)をみると、小売売上高の基調を示すコア小売売上高(自動車・ガソリン・建設資材を除く小売・飲食サービス売上高)は、+3.6%(前月+5.2%)と鈍化しているが、比較的高い伸びを維持しており、コア小売売上高のモメンタムは堅調さを維持。

**7-9月期の実質個人  
消費は前期比年率+  
3.0%と安定的な増加ペ  
ースに**

7-9月期の個人消費については、7、8月のコア小売売上高が4-6月期比年率+1.3%(4-6月期前期比年率+6.7%)と減速しているが、9月の小売売上が新学期セールに伴う販促やガソリン価格の下落による購買力の高まりのほか、スマートフォンの新製品販売の好調等を背景に加速すると予想される。また、サービス消費は電力消費の拡大や余暇サービス関連支出の増加傾向等を背景に、拡大すると想定される。以上より、7-9月期の実質個人消費は前期比年率+3.0%程度と4-6月期の同+4.4%から減速するものの、安定的な増加ペースを維持する公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。